第５課　法の精神を犯す

【暗唱聖句】

「あなたたちも今日あなたたちに負債のある者に返しなさい。畑も、ぶどう園も、オリーブ園も、家も、利子も、穀物も、ぶどう酒も、油も。」エレミヤ5:11

【日曜日・人々の不満】

バビロン捕囚から帰還し、ネヘミヤの指導のもと、神殿の再建とエルサレムの復興という壮大な神様のご計画を遂行していく中で、不満の声が聞かれるようになります。それは外国の攻撃に対するものではなく、共同体の内部に対してのものでした。貧富の格差がすでに発生しており、貧しいものたちは、子どもに食べさせるものがない、畑もぶどう園も家も抵当に入れなければならない、さらにペルシャに納める税が重く、借金をしたり、子どもを奴隷に出さなければならないほどでした。神様のためにと思って頑張ってきても、現実の生活は苦しく、耐えがたい状況に陥っていたのでした。神様に従っていけばいつでもバラ色のような人生を送れるというわけではないという現実に、困惑を覚える場合が少なくありません。

【月曜日・律法の精神に反して】

「この嘆きと訴えを聞いて、わたしは大いに憤りを覚え、居たたまれなくなって貴族と役人をこう非難した。「あなたたちは同胞に重荷を負わせているではないか。」わたしはまた大きな集会を召集して、言った。「わたしたちは異邦人に売られていた同胞のユダの人々を、できるかぎり買い戻した。それなのに、あなたたちはその同胞を売ろうというのか。彼らはわたしたち自身に売られることになるのに。」彼らは黙りこみ、何も言えなかった」ネヘミヤ5:6～8

ネヘミヤは貧しい人々の訴えを聞いて、大いに憤りを覚え、居たたまれなくなります。家族を売ることが認められている時代ではありましたし、金貸しにしても、当時の一般的な金貸しに比べれば、圧倒的に低い金利で貸していました。しかし、ネヘミヤは社会的に認められていることであったとしても、あるいはその土地の慣習に比べればまだましであったとしても、自分たちの家族を売らなければ生活できないほどの困窮状態に同胞があるのを見て、また同じ同胞である貴族や役人たち裕福層が助けようともしない状況を見て、憤りを抑えることができなかったのでした。これは神様の愛と憐みの精神と、律法に反することだったからです。

【火曜日・行動するネヘミヤ】

ネヘミヤは貧しい者たちが直面している問題を放置することはしませんでした。貴族や役人に対して厳しい言葉で非難したあと、ネヘミヤは大きな集会を開き、この問題を提起します。そこで彼がまず問題にしたのは奴隷制度でした。彼らは異邦人に売られていた同胞のユダの人々を、できるかぎり買い戻しました。しかし、買い戻した同胞を自由にしてあげるにではなく、別の人に売ろうとしていたのです。これは明らかにイスラエル人として道理にかなっているものではありませんでした。奴隷として人が売買される背景には、借金がありました。そこでネヘミヤはすべての負債を帳消しにすることを提案します。それに先立って、まず自らこう宣言するのです。

「私も、私の兄弟も部下も金や穀物を貸している。わたしたちはその負債を帳消しにする」ネヘミヤ5： 10

ネヘミヤは口ばかりでなく、まずリーダーとしての模範を示したのでした。その結果、全員がネヘミヤの提案に賛成したのでした。

【水曜日・誓い】

「あなたたちも今日あなたたちに負債のある者に返しなさい。畑も、ぶどう園も、オリーブ園も、家も、利子も、穀物も、ぶどう酒も、油も。」 彼らはそれに答えた。「返します。何も要求しません。お言葉どおりにします。」わたしはこの言葉どおり行うよう誓わせるために祭司たちを呼んだ。わたしはまた衣の折り重ねたところを振るいながら言った。「この約束を守らない者はだれでも、このように神によってその家と財産から離され、振るい落とされるように。このように振るい落とされて無一物となるように。」会衆は皆で、「アーメン」と答え、神を賛美した。民はその言葉どおり行った」ネヘミヤ5:11～13

ネヘミヤは負債を帳消すると答えた貴族と役人たちに対して、口約束だけでなく、確実に行うように祭司たちの前で誓わせます。その内容は、約束を守らない者は神様によって無一文になるという呪いの言葉でした。そのくらい貧しい者たちの問題を大きな問題ととらえたのでしょう。口約束の後に、このような呪いの言葉が続くというのは、あまり良い気持ちのするものではありません。しかし、一度口約束したことは、とても重みがあるのだということがわかります。

【木曜日・ネヘミヤの模範】

「アルタクセルクセス王の第二十年に、わたしはユダの地の長官に任命されたが、その日から第三十二年までの十二年間、わたしも兄弟たちも長官の給与を一度も受け取らなかった」ネヘミヤ5:14

ネヘミヤは長官としてユダの地に派遣されたときから12年間、長官としての給与を一度も受け取りませんでした。長官としての給与は当然の権利でしたが、ネヘミヤはそれを受け取ろうとはせず、そればかりか部下たちのことも養いました。そのために多くの財産を失うことになりました。しかし、このような指導者だったからこそ、民たちは彼に従ったのでしょう。神様の働きを遂行していくためには、これは重要なことでした。ネヘミヤは神様の働きのために自分を犠牲にしたのでした。